

第 61 回 日本輸血学会近畿支部総会演題抄録執筆要項

1. 演題の登録は、全て電子メールによる登録とします。
E-mail:61yuketsukinki@p-forest.co.jp 宛にお送り下さい。
2. 電子メールの件名（表題）は「輸血抄録・筆頭発表者氏名」として下さい。
3. 抄録は、Word で作成頂き、Microsoft Word 2003 のバージョンで開いた状態で文字化けが発生しないか必ずご確認の上、お送り下さい。
4. 文字数は、演題名、所属、演者名および本文を含め 600 字以内とします。
5. 文字化けを防ぐために下記フォントに限定します。
日本語：MS ゴシック、MSP ゴシック、MS 明朝、MSP 明朝
英語：Century、Century Gothic、Arial、Arial Black、Times New Roman
6. 抄録は、演題名、所属、筆頭発表者名、共同発表者名、本文の順に記載して頂き、筆頭発表者名には、○をつけてください。
7. 図表は使用できません。
8. 下記の作成見本を参照の上、作成して下さい。
9. 演題応募締切：平成 29 年 9 月 1 日（金）必着です。多くの先生方からのご応募をお待ちしております。

作成見本

多発性骨髄腫(MM)患者における減量シクロフォスファミド(CY)・G-CSF 併用による末梢血幹細胞採取(PBSCC)

京都府立医科大 血液・腫瘍内科¹⁾、輸血・細胞治療部²⁾

○志村勇司¹⁾、黒田純也¹⁾、知念良顕¹⁾、名越久朗¹⁾、古林勉¹⁾、堀池重夫^{1,2)}

【目的】

MM において自家幹細胞移植併用大量化学療法は標準的治療の一つである。幹細胞採取には 3-4g/m² 程度の中等量 CY と G-CSF が併用されることが多いが有害事象も多い。採取効率を担保しつつ有害事象を軽減することを目的に、減量 CY による PBSCC を試みた。

【方法】

2008-2016 年に 30 症例で PBSCC を施行、うち 7 例で中等量 CY (2g/m²×2 日)、23 例で減量 CY (1.5-2g/m²×1 日)を投与した。G-CSF は中等量 CY 群(従来群)で 3-5 日後から、減量 CY 群(減量群)では翌日から使用した。

【結果】

全例で目標細胞数(CD34 陽性細胞 2.0×10⁶cells/kg)を採取できた。減量群では採取までの平均日数が 7.7 日であり従来群(10.8 日)と比べ短く、ばらつきも少なかった。有害事象に関しては、従来群で Grade4 の好中球減少を全例、Grade3 以上の血小板減少を 4/7 例に認めたのに対し、減量群ではそれぞれ 9/23 例、1/23 例に認めたのみであった。嘔気・食思不振といった非血液学的毒性についても減量群で少なく、採取後の体調回復も早かった。その後の自家移植では全例生着し、2 群間で差は認めなかった。

【結論】

減量 CY による PBSCC は、従来の方法と同程度の採取効率を保ちつつ、安全性と計画性を併せ持つ非常に有用な採取方法の一つである。